

24. 高気圧酸素療法が有効であったオニダルマオコゼによる刺傷例—下腿コンパートメント症候群の予防—

永井りつ子*¹⁾ 新里善一*¹⁾ 小浜正博*¹⁾

大仲良一*¹⁾ 新城安哲*²⁾

〔*¹⁾沖縄セントラル病院高気圧治療部〕
〔*²⁾沖縄県中央保健所〕

海洋危険生物による咬刺傷の被害は年間平均200例に及び創処置に関しても未だ明確な治療法は確立されていない。今回我々はオニダルマオコゼによる刺傷と考えられる症例を経験し、高気圧酸素療法(HBO)により良好な治療効果が得られたので報告する。症例は64歳女性。1998年5月に沖縄県南部のビーチを散策中に水深30cmの場所にて左足で何かを踏み、直後から激痛と少量の出血をみた。激痛は30分後にピークとなり、大腿部まで腫脹、痛みが出現し2時間後に救急病院に収容された。

同院にて経過をみていたが海洋咬刺傷の専門治療を要するとのことで翌日、当院 外科・高気圧治療部に転送された。転院時には左鼠径リンパ節の腫脹と圧痛、大腿下部以下の著明な筋肉、軟部組織の腫脹と灼熱感がみられた。左足裏の刺痕と症状及び受傷状況からオニダルマオコゼによる刺傷と診断した。

激痛は坐骨神経と総腓骨神経ブロックを行い消失した。膝上から下腿の筋膨張が著明で放置すると下腿コンパートメント症候群に陥る危険があると判断し緊急にてHBOを行った。治療条件は3.0 ATA, 60分, 減圧30分で行った。急性期5日間は1日2回その後は1日1回で軟部組織の炎症、腫脹がとれるまで行った。初回治療後から浮腫と腫脹の軽減がみられた。

30回の治療を行い刺傷部に若干の腫脹は残すが良好に回復した。海洋危険生物による咬刺傷に関しても筋損傷や軟部組織損傷を合併する症例にはHBOは有効な治療法であると考ええる。

25. HTLV-I 関連脊髄症 (HAM) に対する高気圧酸素療法の有効性

高橋浩一*¹⁾ 中村好江*²⁾ 高山真理子*²⁾

〔*¹⁾鹿児島県立北薩病院神経内科〕
〔*²⁾ 同 高気圧酸素治療室〕

我々は偶然の機会からHTLV-I関連脊髄症(以下HAMと略する)に対する高気圧酸素療法の治療機会を得、それを契機に複数のHAM患者に対して高気圧酸素治療を試み良好な結果を得たので報告する。

きっかけとなったのは熱傷のHAM患者で熱傷に対する高気圧酸素治療施行中に下肢の痙性の改善と対麻痺の改善が得られ車椅子使用状態から何とか杖歩行可能となった。以後6例のHAM患者に対して高気圧酸素治療を施行し、前述の高気圧酸素治療の契機となった患者と合わせて計7例中5例で有効であった。改善度は、明らかな歩行の改善が得られた症例から、自覚症状の改善のみにとどまった症例までその効果は必ずしも一律ではなかったが、年齢、罹病期間、重症度、神経症状の多彩さなどがその要因と考えられた。

一部の症例では脳脊髄液の前後での検討も行った。また長期観察例では症状が徐々に再悪化し約1年後に再度高気圧酸素療法を施行し初回と同様の効果が得られ、反復治療の必要性も示唆された。

難治性脊髄疾患と考えられるHAMはステロイド療法始め種々の治療法が検討されているが、いずれも確立された治療法とは言い難く、副作用出現の面からも高気圧酸素治療は今後検討されるべき有効な治療法であると考えられた。